

## 特別支援学級 算数科 学習指導案

### 1 題材名 「かけ算を使って，買い物をしよう！」

### 2 題材の目標

乗法や加法の意味について理解し，それらを実際の買い物の場面で用いることができる。

### 3 題材の評価規準

児童	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
A	絵や図から，具体物や半具体物に置き換えて操作しながら乗法で表せる場面を見付けようとする。	絵や図から具体物を操作しながら「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえ，全体の個数の求め方を考えることができる。	問題場面を具体物や半具体物に置き換え「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて式をよむことができる。	乗法の意味が分かる。また，問題場面を図に表し，「1つ分の大きさ」「いくつ分」が分かる。
B	乗法のきまりを使い，乗法九九を作ろうとする。	乗法九九の答えの並び方からきまりを見付け，九九の構成を考えることができる。	乗法のきまりを用いて，九九を構成できる。また，2の段から5の段までの九九を唱えることができる。	乗法の意味及び答えの求め方が分かる。
C	乗法のきまりを見付け，そのよさが分かり，進んで乗法九九を作ろうとする。	被乗法と乗法，積の関係などの乗法のきまりに着目して，九九の構成を考えることができる。	乗法のきまりを用いて，手際よく九九が構成でき，1～9の段の九九を確実に唱えることができる。	乗法が用いられる場面や乗法のきまりを理解し，乗法の意味及び答えの求め方が分かる。
D	小数の乗法は，整数の乗法と同じように考えられることに気付き，それを活用しようとする。	整数の乗法で成り立っていた関係やきまりを使って，小数の乗法の意味や計算の仕方を考えることができる。	小数の乗法の計算が筆算でできる。	小数の乗法の意味と乗法の計算の仕方を理解する。
E	小数の乗法は，整数の乗法と同じように考えられることに気付き，それを活用しようとする。	整数の乗法で成り立っていた関係やきまりを使って，小数の乗法の意味や計算の仕方を考えることができる。	小数の乗法の計算が筆算でできる。	小数の乗法の意味と乗法の計算の仕方を理解する。
F	加法の適応場面を式で表したり答えを求めたりすることに，意欲的に取り組もうとする。	合併や増加の場面を加法の適応場面として判断することができる。	和が10以下になる加法の適応場面を式で表し，正しく計算することができる。	加法の適用場面として合併や増加の場面があることを理解し，加法の記号と符号を用いた式の意味が分かる。

## 4 題材と指導の構想

### (1) 題材について

4月からこれまで「数と計算」の領域を中心に、習熟度が異なる児童一人一人に別々の課題を用意し、個別に授業を行ってきた。どの子も真剣に学習に取り組み、計算ができるようになることに喜びを感じている。

今回の題材では、6人の児童みんなが楽しく充実した1時間を過ごすために、これまでの学習の流れをいかしながら「買い物」の場面を設定し、それぞれが身に付けた力を共通の生活場面でいかす活動を取り入れる。児童が今後、日常生活を送る上で必要な内容であり、児童同士が楽しくかかわり合いながら意欲的に学ぶことができると考える。

### (2) 児童について (6名)

年齢や障がい、学習の習熟度が異なる子どもたちであるが、どの子もとても素直で、何事に対しても全力で取り組むことができる。難しい課題にチャレンジすることに意欲的で、「自分の力をもっと高めたい」という気持ち強い。

児童	「数と計算」に関する実態	指導の構想
A	昨年まで1位数の加法、減法について具体物を使って行っていた。今年度は、指を使いながら、繰り上がりのある加法、減法ができるようになった。しかし、日がたつと計算の仕方が分からなくなり混乱する。	具体物を用意し、乗法の意味を視覚的に分かり易くとらえさせる。操作活動を繰り返し行い、計算によって物の数をとらえさせたい。九九は、無理のない程度に覚えさせる。
B	昨年まで1位数の加法、減法を暗算で行っていた。今年度は、繰り上がりのある加法減法、2位数の加法筆算ができるようになり、習得するのも早い。	日常の買い物場面で、乗法をいかせるように、具体物の数を使って求める活動を繰り返し行う。九九を意欲的に習得できるようにカードを準備する。
C	繰り上がりのある加法、繰り下がりのある減法の筆算は時間はかかるが、3位数までできる。九九は、2の段のみ正確に唱えられる。	具体物を用意し、乗法の意味を視覚的に分かり易くとらえさせる。操作活動を繰り返し行い、計算によって物の数をとらえさせたい。九九を意欲的に習得できるようにカードを準備する。
D	昨年までに、2位数と3位数の乗法、除法を習得している。今年度は、分数を初めて学習し、分数の意味や簡単な加法、減法ができるようになった。計算はできるが、その方法や考え方を表現することは苦手である。	日常の小数を用いる場面を提示し、小数の乗法の意味を自分の言葉で表現できるようなワークシートを用意する。実際の買い物の場面で小数の計算ができるように繰り返し練習させる。

児童	「数と計算」に関する実態	指導の構想
E	昨年までに3位数×1位数の乗法，2位数÷1位数の除法を習得している。今年度は分数を初めて学習し，分数の意味や簡単な加法，減法ができるようになった。実際の生活場面に置き換えて考えることを得意としている。	日常の小数を用いる場面を提示し，実際の買い物の場面で小数の計算ができるように繰り返し練習させる。
F	昨年までに20までの数列を理解している。今年度は，2つの数字の大小を判断したり60までの数字を唱えたり，30までの物の数を数えたりしている。加法を勉強することを楽しみにしている。電子黒板を使った教材で絵を実際に動かしながら学習すると理解が早い。	具体物を用意し，2つの数が合わさると数が増える感覚を繰り返し体験させる。その際，物の数と数字をマッチングさせる手作り教材を提示し，数量と数字の関係を視覚的にとらえさせたい。また，電子黒板での教材を効果的に活用し，物が増える感覚をつかませる。

### (3) 指導の構想

一人一人が楽しく力を付ける授業を展開するために，以下の手だてを講じる。

- ① 児童が意欲的に学習に取り組めるように，電子黒板や具体物を用い，視覚的に物の数を把握したり，実際に操作して動かしたりできる魅力的な教材を用意する。
- ② 実際に操作活動を取り入れながら物の数や量をつかませるために，買い物という生活場面と結び付けた課題を準備する。
- ③ これまで学習してきた内容をいかし，児童同士教え合ったり助け合ったりするかかわりを通して，学習内容の習熟を深めたり，学習意欲を更に高めたりする。
- ④ 達成感や成就感を味わわせるために，1時間の頑張りやできるようになったことが分かる板書をする。

## 5 題材の指導計画(全 15 時間)

1次：個別指導を中心に，九九・小数の乗法・10までの加法の計算の仕方を理解する。  
(12h)

2次：学んだことをいかして，みんなで買い物をしよう。「☆☆マートでお買い物！」  
(3h)

学習のねらい (○)						
1次	A	B	C	D	E	F
1	○皿に乗っている物の数が同数の時、1皿分の数と皿の数で全体の数を表すことができる。	○皿に乗っている物の数が同数の時、1皿分の数と皿の数で全体の数を表すことができる。	○絵を見て、乗法の式で表すことができる。	○小数×整数の式の意味を具体物を手がかりにして理解する。	○小数×整数の式の意味を具体物を手がかりにして理解する。	○絵を見て、2つの集合の合併の事象をとらえる。
2	○乗法の式の表し方と読み方を理解する。	○乗法の式の表し方と読み方を理解する。	○乗法の式の表し方と読み方を理解する。	○小数×整数の式の意味を数直線を手がかりにして理解する。	○小数×整数の式の意味を数直線を手がかりにして理解する。	○2つの集合の増加の事象をとらえ、具体物の操作で増加の意味をとらえる。
3	○「1つ分の大きさ」や「いくつ分」の数に着目し、乗法の式に表すことができる。	○「1つ分の大きさ」や「いくつ分」の数に着目し、乗法の式に表すことができる。	○「1つ分の大きさ」や「いくつ分」の数に着目し、乗法の式に表すことができる。	○小数×1位数の整数の筆算の仕方を考える。	○小数×1位数の整数の筆算の仕方を考える。	○2つの集合の増加の事象をとらえ、具体物の操作で増加の意味をとらえる。
4	○九九の用語を知る。 ○被乗数が2になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○九九の用語を知る。 ○被乗数が2になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○九九の用語を知る。 ○被乗数が2になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○小数×1位数の整数の筆算の練習をする。	○小数×1位数の整数の筆算の練習をする。	○絵を見て、合併の事象であることをたしかめ、加法の式に表せることを理解する。
5	○2の段の九九の呼称を知る。	○2の段の九九を唱えることができる。	○被乗数が5になる問題場面と立式を理解し5の段を唱えることができる。	○積の末尾の0の処理の仕方を理解する。	○積の末尾の0の処理の仕方を理解する。	○絵を見て、合併の事象であることを確かめ、加法の式に表せることを理解する。
6	○2の段の九九を唱えることができる。	○被乗数が5になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○被乗数が4になる問題場面と立式を理解し4の段を唱えることができる。	○積の末尾が0になる筆算を練習する。	○積の末尾が0になる筆算を練習する。	○絵を見て、合併の事象であることを確かめ、加法の式に表せることを理解する。

学習のねらい (○)						
	A	B	C	D	E	F
7	○ 2 の段の九九を覚えることができる。	○ 5 の段の呼称を知り、九九を唱えることができる。	○ 被乗数が 3 になる問題場面と立式を理解し 3 の段を唱えることができる。	○ 小数×2 位数の整数の筆算の仕方を考える。	○ 小数×2 位数の整数の筆算の仕方を考える。	○ 和が 5 以内の加法計算をする。
8	○ 被乗数が 5 になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○ 被乗数が 3 になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○ 被乗数が 6 になる問題場面と立式を理解し 6 の段を唱えることができる。	○ 小数×2 位数の整数の筆算を練習する。	○ 小数×2 位数の整数の筆算を練習する。	○ 和が 5 以内の加法計算をする。
9	○ 5 の段の九九の呼称を知る。	○ 3 の段の呼称を知り九九を唱えることができる。	○ 被乗数が 7 になる問題場面と立式を理解し 7 の段を唱えることができる。	○ 小数第 2 位の小数×整数の計算の仕方を考える。	○ 小数第 2 位の小数×整数の計算の仕方を考える。	○ 和が 5 以内の加法計算をする。
10	○ 5 の段の九九を唱えることができる。	○ 被乗数が 4 になる問題場面と立式を理解し答えを求める。	○ 被乗数が 8 になる問題場面と立式を理解し 8 の段を唱えることができる。	○ 積に 0 を追加して小数をつけたり、積の末位の 0 を処理したりすることを理解する。	○ 積に 0 を追加して小数をつけたり、積の末位の 0 を処理したりすることを理解する。	○ 和が 10 以内の加法計算をする。
11	○ 5 の段の九九を覚えることができる。	○ 4 の段の呼称を知り九九を唱えることができる。	○ 被乗数が 9 になる問題場面と立式を理解し 9 の段を唱えることができる。	○ 小数第 2 位までの純整数×整数の筆算の練習をする。	○ 小数第 2 位までの純整数×整数の筆算の練習をする。	○ 和が 10 以内の加法計算をする。
12	○ 2.5 の段の九九を習熟する。	○ 2.3.4.5. の段の九九を習熟する。	○ 1~9 の段の九九を習熟する。	○ 小数第 2 位までの純整数×整数の筆算を習熟する。	○ 小数第 2 位までの純整数×整数の筆算を習熟する。	○ 和が 10 以内の加法計算をする。

学習のねらい (○)						
2次	A	B	C	D	E	F
1	学んだことをいかして，買い物をしよう！					
	<p>○ 2 の段を使って，買う物の数を求める。</p> <p>○ お客さんとしての買い物の仕方を知る。</p>	<p>○ 2.5 の段を使って，買う物の数を求める。</p> <p>○ お客さんとしての買い物の仕方を知る。</p>	<p>○ 2.5 の段を使って，買う物の数を求める。</p> <p>○ お客さんとしての買い物の仕方を知る。</p>	<p>○ 小数×整数を使って，買う物の量を求める。</p> <p>○ お客さんとして店員としての買い物の仕方を知る。</p>	<p>○ 小数×整数を使って，買う物の量を求める。</p> <p>○ お客さんとして店員としての買い物の仕方を知る。</p>	<p>○ 5 までの加法を使って，買う物の数を求める。</p> <p>○ お客さんとしての買い物の仕方を知る。</p>
2 本 時	学んだことをいかして，買い物をしよう！ 「☆☆ (学級名など) マートでお買い物をしよう！①」					
	<p>○ 身の回りから乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物の流れを理解する。</p>	<p>○ 身の回りから乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物の流れを理解する。</p>	<p>○ 身の回りから乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物の流れを理解する。</p>	<p>○ 身の回りから小数の乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして店員両方の立場で買い物の流れを理解する。</p>	<p>○ 身の回りから小数の乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして店員両方の立場で買い物の流れを理解する。</p>	<p>○ 身の回りから簡単な加法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物の流れを理解する。</p>
3	学んだことをいかして，買い物をしよう！ 「☆☆ (学級名など) マートでお買い物をしよう！②」					
	<p>○ 身の回りから乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物を体験する。</p>	<p>○ 身の回りから乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物を体験する。</p>	<p>○ 身の回りから乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物を体験する。</p>	<p>○ 身の回りから小数の乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして店員両方の立場で買い物を体験する。</p>	<p>○ 身の回りから小数の乗法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして店員両方の立場で買い物を体験する。</p>	<p>○ 身の回りから簡単な加法で全体の数を求められる場面を見付ける。</p> <p>○ お客さんとして買い物を体験する。</p>

## 6 本時の計画(14時間目/全15時間)

### (1) 本時のねらい

A	B	C	D	E	F
<p>○ 2 の段を用いてビスケットの数を求めることができる。</p> <p>○ B 児と相談しながら、12枚になる組み合わせの品物を選択することができる。</p>	<p>○ 5 の段を用いてチョコレート数の数を求めることができる。</p> <p>○ A 児がどの商品を選ぶか迷っている時に、乗法の九九を根拠に自分の考えを伝えることができる。</p>	<p>○ 4 の段、3 の段を用いてキャンディーの数を求めることができる。</p> <p>○ A B 児がどの商品を選ぶか迷っている時に、乗法の九九を根拠に自分の考えを伝えることができる。</p>	<p>○ 小数の乗法を用いてジュースの量を求めることができる。</p> <p>○ E 児の意見を参考にしながら自分の商品を選び、自分の考えに自信をもつことができる。</p>	<p>○ 小数の乗法を用いてお茶の量を求めることができる。</p> <p>○ D 児の意見を参考にしながら自分の商品を選び、自分の考えに自信をもつことができる。</p>	<p>○ 加法を用いてカボチャのランプの数を求めることができる。</p> <p>○ 自分が選んだ品物の数を A B C 児に確認してもらい、正しい数を選べたことに喜びを感じることができる。</p>

### (2) 本時の構想

第1次では、個別指導により、九九・小数の乗法・10までの加法の計算の仕方を学習し、基本的な乗法・加法の意味や計算方法について理解している。

本時では、学習してきたことを実際の場面でいかし活用できるようになってほしいため、買い物の場面を設定する。児童の興味・関心を引き出し、実際の数を目視的に捉えさせるために、実物の品物や絵カードを用意し、実際にさわったり動かしたりしながら、児童が意欲的に分かり易く物の数をとらせることを期待する。また、互いにコミュニケーションを取りながらかわることにより、学習意欲を高めたり、学習の習熟を図ったりできると考える。

### (3) 本時の展開

■評価 ○指導上の留意点

A	B	C	D	E	F
<p>導入1 お金を使ったゲームをし、リラックスしながらお金のよみ方を復習する。(5分)</p>					
<p>T1 みんなで「どれが一番たくさんお金が入っているかな？」ゲームをしましょう！</p>					
<p>C ぼくのさいふには、120円入っていたよ。</p>	<p>C 私のさいふには、240円入っていたよ。</p>	<p>C 私のさいふには、525円入っていたよ。</p>	<p>C ぼくのさいふには、427円入っていたよ。 C F さん600円だよ。</p>	<p>C ぼくのさいふには、579円入っていたよ。</p>	<p>C 私のさいふには・・・ ○数えられなかったら、友達にSOSを求めよう。 C 600円だよ！ やったー！</p>
<p>■自分の財布の中身の金額を正確に数えることができる。 ○一人一人の実態を考慮し、それぞれが数えられるお金を渡す。 ○自力で数えることが困難な場合は、友達に助けを求めようように促す。</p>					

A	B	C	D	E	F
展開2 自分が買う物を確認する。(5分)					
<p>T2 今日、習った計算を使って、「☆☆マート」で買い物をしてもらいます。今日買ってもらいたいものは、ハロウィンパーティーに必要な物です。</p> <p>① ビスケット12枚(2枚×6袋)(3枚×4袋)(6枚×2袋)</p> <p>② チョコレート15個(5個×3袋)(3個×5袋)</p> <p>③ キャンディー24個(6個×4袋)(3個×8袋)(4個×6袋)</p> <p>④ ジュース4.5L(1.5L×3本)(0.5L×9本)(0.5L×4本+1L+1.5L)</p> <p>⑤ お茶3L(0.6L×5本)(0.5L×4本+1L)(0.5L×3本+1.5L)</p> <p>⑥ カボチャのランプ6個(2個+4個)(3個+3個)</p> <p>○複数の式が成り立つように、品物の数や量を調整して準備しておく。</p>					
<p>T3 誰に何を買ってもらおうかな?みんなで、分担してください。どうしてそう思うのか、理由も言ってください。</p> <p>■自分の既習内容を生かし、どの品物を買えそうか判断することができる。</p> <p>○DE児には、友達それぞれの既習内容を根拠に自分の考えを述べさせる。</p>					
C ぼくは、ビスケットがいいな。	C 私は、キャンディーがいい!いっぱいあるから!	C 私は、何でもいい・・・。	C 小数のは、6年男子がいいね。 C キャンディーは、Cさんがいいね。	C ビスケットは、2の段が使えるから、A君がいいよ。	C 私は、カボチャのランプ!かわいい!
展開3 お店の品物の中から自分が買う物の数を正確に求め、選ぶ。(20分)					
<p>T4 では、①のビスケットは、Aさん。②のチョコレートは、Bさん。③のキャンディーは、Cさん。④のジュースはDさん。⑤のお茶はEさん。⑥のカボチャのランプはFさんお願いします。</p> <p>T5 自分が買いたい商品を持ってきてもらいます。選んだら、先生に見せてください。</p> <p>■乗法や加法を用いて、買う物の数を求めることができる。</p> <p>○ABC児のグループ、DE児のグループに分かれて、かかわり合いながら品物の数を選ぶことにする。</p> <p>○乗法や加法を用いて答えを導き出したことが分かるようなワークシートを用意し、それと一緒に品物を持って来させる。</p> <p>○電子黒板を用いて、計算の仕方を一緒に考える。</p> <p>○早く終わった人は、他の組み合わせでも同じ数になるパターンを用意しておき、それに気付かせる。</p>					
C $2 \times 6 = 12$ だから、これで12個になります。	C $5 \times 3 = 15$ だから、これで15個になります。 C Fさんの、3個入りの箱2箱でもいいね。	C $6 \times 4 = 24$ だから、これで24個になります。	C $1.5 \times 3 = 4.5$ だから、これで4.5Lになります。 C Aさんの、 $3 \times 4 = 12$ で別のビスケットでもいいね。	C $0.6 \times 5 = 3$ だから、これで3Lになります。 C Cさんのは $8 \times 3 = 24$ で別のキャンディーでもいいね。	C 2と4で6個だよ。



A	B	C	D	E	F
展開4 買う物をレジに持っていき、代金を支払う。(10分)					
<p>T6 品物が選べたので、実際に買い物をしてもらいます。今日は、DさんEさんがレジ係です。昨日練習したように、レジ係さんに品物を渡して、お金を間違わないように渡しましょう。</p> <p>■買い物を行うために必要な社会的なルールを理解し、コミュニケーションを取りながら主体的に買い物ごっこができる。</p> <p>■レジ係は、品物の単価に個数をかけて合計の金額を正確に求めることができる。</p> <p>■合計の金額に対応するお金を財布の中から選び、レジ係に渡すことができる。</p> <p>○レジ係には、電卓を用意する。</p> <p>○お金を正確に選べない児童に対しては、友達にSOSを求めるよう促す。</p> <p>○単価は、あらかじめ品物に分かり易く表示しておく。</p>					
C 50円×6個だから300円。100円玉3個だね。	C 35円×6個だから210円。100円玉2個だね。10円玉1個だね。	C 42円×6個だから252円。100円玉2個50円玉1個1円玉2個だね。	C いらっしゃい！いらっしゃい！300円で～す！	C 600円です。100円玉6個だよ！	C 600円？C わかった！1.2.3.4.5.6!
終末5 今日の学習を振り返る。(5分)					
<p>T7 今日勉強したことを振り返って、がんばりカードに記入しましょう。</p> <p>■自分の頑張りや成長に気付くことができる。</p> <p>○自分の頑張りが目に見えるような振り返りシートを用意する。</p>					
C 買い物ができて楽しかった。	C 乗法を使って買い物ができてよかった。	C お金がきちんと払えてよかった。	C レジ係が楽しかった。	C 友達と楽しく買い物ができてよかった。	C 楽しかった。

#### (4) 本時の評価

A	B	C	D	E	F
○2の段を用いてビスケットの数を求めている。(ワークシート・発言・選んだ品物)	○5の段を用いてチョコレートの数を求めている。(ワークシート・発言・選んだ品物)	○3・4の段を用いてキャンディーの数を求めている。(ワークシート・発言・選んだ品物)	○小数の乗法を用いてジュースの量を求めている。(ワークシート・発言・選んだ品物)	○小数の乗法を用いてお茶の量を求めている。(ワークシート・発言・選んだ品物)	○加法を用いてカボチャのランプの数を求めている。(ワークシート・発言・選んだ品物)
○友達と相談しながら品物を選択している。(かかわり)	○乗法の九九を根拠に自分の考えを伝えている。(かかわり)	○乗法の九九を根拠に自分の考えを伝えている。(かかわり)	○友達とのかかわりをもとに、自分の考えに自信をもっている。(かかわり)	○友達とのかかわりをもとに、自分の考えに自信をもっている。(かかわり)	○友達と相談しながら品物を選択したことに喜びを感じている。(かかわり)

